

佐賀新聞 2010(平成22)年2月3日(水) 県内文化欄 連載「近代との遭遇 世界を見る・日本を創る」

佐賀新聞 (第三種郵便物認可)

洋画家たちの名画

県内文化

スポット SPOT

近代との遭遇

世界を見る・日本を創る



黒田清輝「洋燈と二児童」=1891(明治24)年、財団法人ひろしま美術館蔵

かがやく時代の息吹

「看板」的存在
できる限り各画家の代表作、名画をお客さまのお目に

「看板」的存在
作品は、展覧会の趣旨と意

「看板」的存在
作品は、展覧会の趣旨と意

本展第2部には佐賀出身の洋画家百武兼行、久米桂一郎、岡田三郎助に加え、かれらにゆかりの深い洋画家たちの珠玉の名画が展示されている。全50点の出品のうち約半分が佐賀県初公開で、また佐賀での公開が数十年ぶりの作品もある。

「看板」的存在
作品は、展覧会の趣旨と意

半数が県内初公開

学期の作品が集められていることも見られる。久米桂一郎と岡田三郎助の「薔薇の少女」(1901)は、現在にもつながる日本の洋画の基礎となった。現在の木炭デッサンの理念は、久米がフランスで学んだそれを継承したものであり、また日展の前身である「文部省美術展覧会(文展)」の第1回の洋画の審査員を久米と岡田が務めた。本展第2部は、現代日本の洋画の二つの始まりの地点である。明治の洋画家たちを支えたもの、それは西洋の美への憧れとともに、新時代の日本の美を創出するという大役を担うことへの自覚と情熱、そして誇りではなかったろうか。

美しい名画に息づく時代の息吹を、ぜひ会場で感じていただければと思う。(県立美術館学芸員 野中耕介)



岡田三郎助「薔薇の少女」=1901(明治34)年、石橋財団石橋美術館蔵

佐賀城本丸歴史館の開館5周年を記念した特別展「近代との遭遇—世界を見る・日本を創(つく)る—」は14日まで県立美術館で開催。8日は休館。観覧料は一般1000円、大学生800円、高校生以下と障害者は無料。関連事業として、学芸員の展示解説(会期中毎週土曜午後2時から、要入場券)▷県立博物館常設展・特別展示「岡田三郎助—洋画の美、花ひらく—」(3月14日まで、観覧無料)▷高辻知義東京大名畫教授講演会「久米邦武の見なかつた町と國・マイセン、サクセン」(2月7日午後1時半、県立美術館ホール、聴講無料)がある。問い合わせは佐賀新聞社事業部、電話0952(28)2151へ。